

# 第187回 花のお江戸を歩く会

## 江戸農村と現代商店街がクロスする

### 「五反田～武蔵小山～荏原界隈散歩」

\* 注意事項 = 損害保険等未加入です。事故はすべて自己責任になります。

\* 緊急連絡 = 09085831528

#### ＜散歩道のご案内＞

五反田は江戸時代、目黒川の谷がほぼ東西に流れ、その谷周辺の水田が一区画が5反(約1500坪)あったために名づけられた江戸の近郊農村でした。「荏原」は、万葉集の東歌で、荏原郡の防人やその妻が詠んだ歌があるほど古い地名です律令制度下の郡名でした。地名は一説に荏胡麻の繁茂する原に由来すると言われていています。中原街道沿いには様々な石仏や庚申塔が点在しながらも、今は江戸の近郊農村の面影を急速に失いつつある当地域を想像力を働かせて(ボケ防止にも有効です)歩きます。

#### ＜散歩道の順路＞

##### ① 宝塔寺

もとは法東寺と称し、室町時代の応永8年(1401)に創建されたと伝えられる。初めは品川の海岸近くにあり、のち目黒川沿いに移転して宝塔寺と名を変え、さらに江戸時代初期の万治年間(1658～61)に、目黒川の水害を避けて現在地に移転した。ここに今も祀られている元三大師(良源、慈恵大師)を参拝してから網を下ろすと大漁になるといわれ、当時の漁民から厚い信仰を受けていた。小高い岡野斜面お墓地上方には、江戸時代にこの地の開拓を手がけた下大崎村の名主だった島田若狭の墓がある。→**桜田通り**

##### ② 雉子神社

「雉子」宮の名で親しまれている古い神社(文明年間=1469～87の創建と思われる)で、かつて上・下大崎村、やま谷山村の鎮守。江戸時代までは「大鳥大明神」と呼ばれていた。3代将軍徳川家光が鷹狩りをしていたとき、1羽の白いキジがこの神社に逃げ込んで見えなくなったことから、家光が神社の名を「雉子」宮と呼ぶよう命じたと伝えられる。昔は境内にカエデが多く、紅葉の季節には多くの参詣人があったといわれる。平成6年(1994)に境内に大きなビルが建ち、社殿はその1階部分に改築された。→**関東逓信病院**

**院→池田山交番**

##### ③ ねむの木の庭(旧正田邸跡)

皇后美智子様のご実家があった旧正田邸跡地を品川区が整備し、平成16年(2004年)に公園としてオープンした。公園名は皇后様が高校時代に作られた詩「ねむの木の子守歌」にちなんでいる。静かな住宅街にある小さな公園だがよく整備されており、旧正田邸の門扉を模した正門や旧正田邸の庭石、暖炉の煙突をモチーフにしたガス灯などが配されている。

る。また、園内には皇后様が御歌で詠まれたヤマボウシやネムノキ、ライラック、シラカバなどゆかりの樹木や草花が植えられている。この中には皇后様が皇太子妃だったところにイギリスの企業から贈られたバラ「プリンセスミチコ」があり、毎年初夏と秋にやわらかい花を咲かせる。→薬師寺東京別院→五反田公園T→中原街道

#### ④ 徳蔵寺

天台宗 長命山地蔵院徳蔵寺。梁誉道元大和尚によって武蔵野国荏原郡大崎村に、天正年間（西暦 1573～91 年）中頃、開創。門前に「第一日野小学校発祥の地」の石碑がある。

**塩地蔵尊**＝塩地蔵に供えられた塩を少量もち帰り、風呂に入れて入ると諸病に効験があると伝えられ、眼病に靈験顕かな地蔵尊。

**三輪地蔵尊**＝五代將軍綱吉に仕えた大奥の老女・三輪の菩提を弔うため、元文 3 年（1738）に安置された尊像で虫歯の痛みを取り除く効験があると伝えられる。

#### ⑤ 柳生家下屋敷跡

現在の西五反田 3 丁目 3 番・4 番・5 番あたりは、大和国（現奈良県）柳生藩の下屋敷で、北側は肥後国（現熊本県）熊本藩細川家抱屋敷に接しており、敷地は地続きの抱え地も含め約 1 万 2 千坪ほどであった。柳生氏は、参勤交代をしない定府の大名家で代々將軍家の劍術師範を職としていた。

初代宗短が 1 万 2 千 5 百石を領して大名に列したが、跡を継いだ十兵衛三蔵（じゅうべいみつよし）は弟宗冬らに 4 千石あまりを分け与え、いったん旗本となった。その後、三蔵が没し、宗冬が遺領を継いだ後加増を受け、あわせて一万石となって大名に復した。

#### ⑥ 安楽寺

戦国時代の弘治 2 年（1556）開山といわれる天台宗の寺で、かつて本堂裏の池の周囲に萩が繁っていたので、「萩寺」とも呼ばれた。今その面影はないが、境内には徳蔵寺同様珍しい石造物が保存されている。下半身だけが風化したように細くなっている「塩かけ地蔵」で、願をかける者は足元に塩を供える風習がある。

地蔵像の隣には、堂に祀られている塚がある。権八・小紫の連理塚で、権八の恋人の遊女小紫は権八の処刑を悲しんで後追い自殺をしたと伝えられる。二人の恋物語は歌舞伎にもなっている。連理塚は二人の供養のために下目黒の明王院に建てられたものだが、同寺が明治初めに廃寺になったため、安楽寺が引き取った。

#### ⑦ 氷川神社＝自然の湧水が今に残る・・・

当神社の由緒は不明であるが、新編武蔵風土記には元禄時代には既にあったことが記録されている。桐ヶ谷村(当地の旧名)が開拓された江戸期初期の建立と推定されている。明治 41 年(1908 年)に桐ヶ谷村内にあった八幡神社、諏訪神社、第六天神社を合祀した。現在の社殿は昭和 13 年(1938 年)に造営されたもの。この付近は武蔵野台地の末端にあたり、湧き水が多くあった。そのような中で氷川神社本殿の右崖に「氷川の滝」があった、これは、都内七瀑布[1]のひとつであり、嘉永 4 年頃(1851 年)に村民が僅かに湧き出していた泉を大きく開いて作ったものである。遠方からの人出もあったそうだが、滝は現在は廃れ、その名

残りのわずかな湧水を見られるに留まっている。→**不動前駅（丸福蕎麦店）**

### ⑧ かむろ坂

江戸時代、辻斬り強盗を重ねていた元鳥取藩士平井（白井）権八が鈴が森で処刑され、なじみの遊女小紫は悲しんで自害した。

この時、帰りが遅い小紫を探しに来たお付のかむろが、帰り道でならず者に襲われ、逃げ道を失い桐ヶ谷の二つ池に身を投げたという。

これを哀れんだ近くの人が亡骸を傍らの丘に葬り、その後この一帯の丘陵をかむろ山、これに通じるこの坂をかむろ坂と呼ぶようになった→**武蔵小山駅**

### ⑨ 朝日地蔵堂

江戸時代初期の寛文7年（1667）に、戸越村の念仏講員16名によって造立。安産、厄除け、子育てなどにご利益がある。九品仏の浄真寺の開山珂碩上人が、仏道修業のため毎日夜明け前に浄真寺を出て芝の増上寺まで通っていたころ、ちょうどこの地蔵堂のあたりで朝日が昇るため、いつしか朝日地蔵と呼ぶようになったという。→**長応寺→桐ヶ谷寺**

→**桐ヶ谷通り**

### ⑩ 旧中原街道

中原街道は徳川家康が中原（平塚）に御殿を築き鷹狩などを行ったりした時に通った道です。そして御殿引き払い（明暦3年）後も東海道の脇往還としてまた江戸と相州を結ぶ産業道路として盛んに利用されました。

### ⑪ 中原街道供養塔群

地蔵菩薩立像2基と馬頭観世音、聖観音立像が安置されている。江戸中期から後期にかけての庶民の信仰状況を示すものとして貴重なものだそうだ。→**荏原保健所T**

### ⑫ 戸越地蔵

戸越不動尊は子育て地蔵として古くから信仰されている。その他供養塔も江戸期の戸越村・桐ヶ谷村を通る中原街道の面影を伝えている。寛文6年（1666）造立の笠塔婆型、延宝元年（1673）造立の板碑型、宝暦4年（1754）造立の長方形板型の庚申供養塔、江戸時代（1603～1868）中期以降に造立の笠塔婆型供養塔や地蔵菩薩立像、大正3年（1914）造立の碑なども貴重である。

玉垣の右から2番目に、「鬼平犯科帳」「剣客商売」などを書いた作家「池波正太郎」の名が刻んであります。池波正太郎は昭和30年（1955）、旧中原街道のこの付近に住んでいたことがありました。

### ⑬ 武蔵小山商店街

このあたりは、江戸時代までタケノコの産地で、豊かな田園風景の地でした。大正12（1923）年、目蒲線小山駅が開業すると、翌13年には現在の武蔵小山駅に改称。同時に駅周辺はポツポツと商店が開業し始めました。その後、昭和20（1945）年、商店街は空襲によって焼失。昭和22（1947）年には、戦後の復興の中、武蔵小山商店街協同組合が結成されます。昭和31（1956）年にはアーケード（全長470メートル）が完成、東洋一と評判を呼び、駅

前から続く商店街はさらに活気づきました。平成に入り、駅は地下化され、駅前広場や駅ビルが新設され現在に至ります。→マック左折→八幡通り

#### ⑭ 三谷八幡神社

神社は近隣にある小山八幡神社[1]と延宝・元禄時代のころに「宗教上の軋轢」があったとされ、それにより三谷の名主石井助太夫が小山八幡神社にあった八幡神像を三谷にある出世稲荷社の境内に遷座し、三谷地区の氏神としたのが始まりである。昭和7年(1932年)には村社なる。その後の第二次世界大戦による戦災で社殿が焼失し、現在の社殿は昭和32年(1957年)に再建されたものである

#### ⑮ 金山地藏堂

金山地藏堂は、小山村の旧家石井・伊藤両家が九品仏の浄真寺(世田谷区奥沢)に願をかけて成就したので、ここに地藏菩薩を祀って感謝の意を表したと伝えられる。地藏堂の入口に3基の庚申供養塔と馬頭観世音供養塔がある。庚申供養塔はそれぞれ正徳2年(1712)、享保4年(1719)造立のものと、元禄年間に建てられたものを昭和32年(1957)に再建したもので、いずれも正面に青面金剛像を刻んでいる。

#### ⑯ 小山八幡神社

神社の由緒は不明であるが、言い伝えによると、長元3年(1030年)頃に源頼信がこの地に誉田別尊を氏神として奉ったのが始まりであるという。後に妙見菩薩も誉田別尊と並んで祀られたので、妙見八幡ともこの地の旧名を採って池の谷八幡とも呼ばれていた。妙見菩薩は明治時代の神仏分離令により、隣接してある別当寺であった・摩耶寺に移された。

内は小高い丘(古墳跡といわれている)の上に位置しているため、『小山』と呼ばれそれが現在の近辺の『小山』の地名の由来になっている。現在では境内からの眺めが品川百景に選ばれている。

かつては小山村全体が氏子の範囲であったが元禄時代に宗教上の軋轢により二分され、三谷地区に三谷八幡神社が分祀されて現在に至っている。二分されたが現在では祭りは両社合同で行うため両社祭りという。また、荏原七福神のひとつとして大黒天をまつっている。

#### ⑰ 麻耶寺

母山という山号が示すように仏(お釈迦様)の母(摩耶夫人)をお祀りしています。

延宝六年(1678年)に摩耶夫人像が造られ、本堂左側の摩耶堂(天保年間1830年~1844年に建立)に安置されています。伽藍は、震災、空襲などの難を免れましたが、老朽化は甚だしく昭和53年に本堂を改築摩耶堂を改修し現在に至っています。

耶寺は日蓮宗に属しています。鎌倉時代に日蓮聖人(1222年~1282年)が社会不安と自然災害に苦しむ人を救うため、法華経とお題目を弘められたことにより法華宗が成立し、明治時代に日蓮宗となりました。

#### ⑱ 旗岡八幡神社

長元3年(1030年)に源頼信が当時下総国(現在の千葉県)において発生していた平忠常の乱を平定するために、下総に行く途中この地に宿営し靈威を感得して、この地に八幡大

神を奉り戦勝を祈願したのが地名の発祥とされる。当時この地に陣を張り、源氏の白旗をなびかせて武威を大いに誇ったという。そのことが現地名の「旗の台」や「旗岡」の名の由来になっているとされる。その後、鎌倉時代に入り、当地の領主・荏原義宗(源義家の末裔と言われている)によって社殿等が建立され、源氏の守護神のみならず地域の鎮守神とした。また荏原義宗は日蓮宗に篤く帰依し、息子を日蓮の高弟・日朗の弟子とさせた。息子は後に朗慶上人となり、荏原氏の館跡に法蓮寺を開山した。この寺院は長く隣接する旗岡八幡神社の別当寺となった。明治時代に別当は廃止されたが、現在でも当神社に隣接してある。また、旗岡八幡神社の前の道は鎌倉道のひとつで古来より鎌倉へと通じる道として知られていた。

その後の時代になっても人々からの信仰は厚く、江戸時代には 2 代将軍・徳川秀忠に祈願所とされたほか、特に弓術者から篤い信仰を得て、毎年 2 月 15 日には近郊の各地から武士が集まって境内で弓術の競射が行われるようになり、有名であった。

### ⑱ 法蓮寺

当寺院は隣接してある旗岡八幡神社の別当寺になった。江戸時代になると、旗岡八幡宮は二代将軍・徳川秀忠の祈願所となり、また 39 世代住職・日詮は江戸城大奥でも人気の僧であった。当寺院は荏原七福神のひとつ恵比寿神を祀っている。天保年間に斎藤月岑が描いた江戸名所図会にも中延八幡宮・法連寺としてその俯瞰図が描かれている→東急大井町線「荏原町駅」(解散)